

想定外の事態が生じたかどうかの判断

- ・加入尾数やその変動の大きさが想定以上に大きい(小さい)年が続くことによって、または、データの更新や資源評価手法の大きな変更によって、将来予測が「当初の想定と異なる」ことが確認された場合
 - ・将来予測が「当初の想定と異なる」場合については、特に以下のような確率に注目する
- ① 短期的に資源量が限界管理基準値や禁漁水準を下回るリスク(例: 5年間の管理期間内に、予測親魚資源量が SB_{lim} , SB_{ban} を下回る確率が想定外に高くなった, など)
 - ② 中長期的に目標管理基準値に資源を維持できる確率(例: 10年後に SB_{target} に到達する確率が当初の予測よりも大幅に低く・高くなったなど)
- ・大きな情報の更新が行われ、早急な対策を講じる必要があると考えられる場合(例: 自然災害, 国際交渉等)